

非自転性ワイヤロープを使用時の注意について

- 弊社製クローラクレーンに搭載している巻上ウインチ用 非自転性ワイヤロープ（ナフレックスワイヤロープ）におきまして、形くずれの報告がありました。
- 発生要因と注意点を記載しましたので、内容をご確認ください。
- ワイヤロープのトラブルを早期に発見し、事故を未然に防ぐために取扱説明書を参照し、定期的な点検・整備をお願いいたします。

1. 発生要因

- ワイヤロープが構造物等と干渉し強く擦られ、しごかれて撚りが詰まり、ワイヤロープ外層と内層の撚りのバランスが崩れ、形くずれが発生しやすくなります。
（下の写真をご参照ください。）
- 巻上げ負荷と巻下げ負荷が異なる作業を連続で行うと、撚りが詰まってしまい、ワイヤロープ外層と内層の撚りのバランスが崩れ、形くずれが発生しやすくなります。
（下の写真をご参照ください。）



2. 注意点

- ワイヤロープの通し間違いにご注意ください。
- 作業終了後は、最大繰り出し長さにて空荷で数回巻き上げ下げを繰り返して撚り取りを実施してください。
- 急激な負荷変動や速度変化は、ワイヤロープに大きな衝撃がかかるとともに、振動してシーブやドラムを叩き、ワイヤロープの寿命を短くします。
急な操作をしないでください。

- 層替わり部では、ワイヤロープに負荷がかからないように取扱説明書を参照し、適切なワイヤロープ長さで使用してください。
- フック多数掛け時には、撚りが入らないようにご注意ください。
- 定期的にワイヤロープヘグリスを塗布してください。
- 同じブーム構成で長期間使用すると、シーブ接触部等では摩耗・素線切れ・潰れなどの損傷が起こりやすいため、端部を若干切り詰めることによって損傷位置が変わり、損傷を防ぐことができます。またワイヤロープ端末の天地入れ替えを行うことも同様に損傷を防ぐことができます。
- 新品のワイヤロープを使用する際は、最大繰り出し長さにて、19.6～29.4kN（2～3tf）の張力で数回巻き上げ下げを繰返し、慣らし運転を行ってから、本運転を行ってください。
- ワイヤロープ交換や天地入れ替えの際は、ワイヤロープ巻取り装置（クレンチワーカーなど）を使用してドラムに巻き込んでください。
注意：ワイヤロープを強擦させながらテンションをかけて巻き込むことは、絶対にしないでください。

ご不明な点がございましたら、最寄りの“サービス工場”または“サービスセンタ”にご相談ください。

●ご用命は右記のサービス拠点へ